2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	言語聴覚障害診断学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	2 (60) 時間(単位)
対象学年	一年次	学期及び曜時限	後期	教室名	406教室
担当教員	門脇康浩 他 実務経験とその関連資格	介護老人保健施設、病院で言語聴覚士として言語聴覚障害、摂食嚥下障害のリハビ リテーションを実施していた。			

《授業科目における学習内容》

言語聴覚障害概論の内容を踏まえ、各種障害の評価・診断について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

レポート課題(100点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

適宜、資料を配布する。

《授業外における学習方法》

講義で取り上げた評価法について、実施の習熟のため積極的に学生同士で演習を行うことを推奨する。

《履修に当たっての留意点》

検査については、グループで演習を予定しているため、積極的な取り組みを望む。

	業の 法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 1 回	講義	授業を 通じての 到達目標	自由会話の準備を通して、コミュニケーション上の問題点を把握 し、解決策を考える。		コミュニケーション論で 配布した資料や使用テ キストを精読しておく。
	形	各コマに おける 授業予定	高齢者との自由会話演習(1) 高齢者の特徴と理解 自己分析と自由会話準備	配布プリント	
第 2 回	講義演習形式	通じての	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。		コミュニケーション論で
		高齢者との自由会話演習(2) 地域の健常高齢者との自由会話の実施	配布プリント	配布した資料や使用テ キストを精読しておく。	
第 3 回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論で 配布した資料や使用テ キストを精読しておく。
		各コマに おける 授業予定	高齢者との自由会話演習(3) 自由会話の振り返り		
第	義 到達目標 演 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	授業を 通じての 到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論、失 語症 I で配布した資料 や使用テキストを精読し ておく。
4 🗓		U - 11-	失語症者との自由会話演習(1) 高齢者の特徴と理解 自由会話準備		
第 5 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論、失 語症 I で配布した資料 や使用テキストを精読し ておく。
	漢習形式	各コマに おける 授業予定	失語症者との自由会話演習(2) 地域の失語症者との自由会話の実施		

授業の 方法				使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。		コミュニケーション論、失 語症 I で配布した資料 や使用テキストを精読し ておく。
	個習 形式	各コマに おける 授業予定	失語症者との自由会話演習(3) 自由会話の振り返り	配布プリント	
第 7 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳画像の種類と見方が理解できる。	配布プリント	脳の構造を事前に学習 しておく
	個習形式	各コマに おける 授業予定	脳画像と診断(1)		
第 8 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳画像を見て構造を理解し、説明できる		脳の構造を事前に学習
	習者ではおける。 形式 発業予定		脳画像と診断(2)	配布プリント	Mの特定を事前に子自 しておく
第 9 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	脳画像を見て、高次脳機能障害の責任病巣、中心溝が理解で きる		脳の構造を事前に学習 しておく
	習形式	各コマに おける 授業予定	脳画像と診断(3)	配布プリント	
第 10 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	HDS-R、MMSEの特徴と検査手技が理解できる。		HDS-R, MMSEの検 査下位項目を事前に読 んでおく
	個習形式	習 各コマに おける	HDS-R、MMSE(1)	配布プリント	
第 11 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	HDS-R、MMSEの検査が実施できる。	配布プリント	HDS-R, MMSEの検 査下位項目を事前に読 んでおく
	倒習形式	習 各コマに おける	HDS-R、MMSE(2)		
第 12 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高い SLTAの概要、実施方法を理解できる。	•標準失語症検	・各回で講義・演習を実施する 範囲の検査マニュアルを読ん でおくこと。 ・検査実施の習熟を目的に学 生同士で練習すること。 各回 時間中に実施方法の理解度を 確認する。
	習形式	各コマに おける 授業予定	標準失語症検査 SLTA(1)	・検査マニュアル ・配布プリント	
第 13 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高い SLTAの概要、実施方法を理解できる。	•標準失語症検	・各回で講義・演習を実施する 範囲の検査マニュアルを読ん でおくこと。
	問習 各コマに おける 授業予定		標準失語症検査 SLTA(2)	・検査マニュアル ・配布プリント	・検査実施の習熟を目的に学 生同士で練習すること。 各回 時間中に実施方法の理解度を 確認する。
第 14 回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高い SLTAの概要、実施方法を理解できる。	•標準失語症検	・各回で講義・演習を実施する 範囲の検査マニュアルを読ん でおくこと。 ・検査実施の習熟を目的に学 生同士で練習すること。 各回 時間中に実施方法の理解度を 確認する。
		各コマに おける 授業予定	標準失語症検査 SLTA(3)	金 ・検査マニュアル ・配布プリント	
第 15 回	講義演	授業を 通じての 到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高い SLTAの概要、実施方法を理解できる。	査 ・検査マニュアル ・配布プリント	・各回で講義・演習を実施する 範囲の検査マニュアルを読ん でおくこと。 ・検査実施の習熟を目的に学 生同士で練習すること。 各回 時間中に実施方法の理解度を 確認する。
	演習形式	各コマに おける 授業予定	標準失語症検査 SLTA(4)		